

9月新刊案内

# 石による形と建設

中世石切術から19世紀截石術まで

エンリケ・ラバサ・ディアス 著 / 入江由香 訳  
FORMA Y CONSTRUCCIÓN EN PIEDRA  
De la cantería medieval a la estereotomía del siglo XIX

定価(本体28,000円+税)

B5判上製函入 本文328頁 296点 ISBN4-8055-0602-8



中世のスペインにおいてゴシック建築の建設に用いられた石切術は、建物を構成する一つ一つの石材を加工するための技術である。そして、石材の形は作図をもとに明らかにされるのだが、ルネサンス期に石工親方や建築家によって書物に著された石切術の作図法は、後に画法幾何学という数学の一分野が生まれるきっかけとなった。本書はこの画法幾何学の立場から、中世、ルネサンス期、そして一九世紀まで続く石切術の歴史の変遷を辿ったもので、スペイン国内の事情のみならず、フランスを始めとする欧州諸国の状況も勘案して、石造建造物における空間形態が、どのように設計、建設されたのかという問いを解明している。近代には截石術と呼ば

れるようになる石切術の作図という研究対象を、このように網羅的な形で紹介した文献は、我が国においては本書が初めてであろう。

著者のエンリケ・ラバサ・ディアス博士はマドリード工科大学(スペイン)建築高等技術学校教授で、画法幾何学および建築図法の起源と歴史、ならびに石切術の理論と実践を専門とする研究者である。一九九六年に発足したスペイン建設技術史学会の発起人の一人として、内外の研究者との交流にも積極的に取り組んでおり、スペインや諸外国の大学において建設技術史に関する多数の講座に参加し、講演を行っている。さらに、建築学校の学生を対象とした石工技術の実習室を開設したり、職人のための截石術の実技講習を担当したりと、文字通り理論と実践双方からの多彩な研究、教育活動を繰り広げている。

(訳者「あとがき」より)



中央公論美術出版

## 目次

### 序文

### 第1章 概説

- 1 基準、制御、作図
- 2 予見
- 3 その他の技術と学問
- 4 理論と実践。表現法
- 5 先達と秘密

### 第2章 リブヴォールトの作図

- 1 形の上で有効なアーチ
- 2 手立てとしてのゴシック様式
- 3 初期ゴシックのヴォールトにおける比例の根拠に関する考察
- 4 形を持たない充填物
- 5 ヴィオレ＝ル＝デュックの説によるアキテーヌ式ヴォールト
- 6 スペインにおけるアキテーヌ式ヴォールト、交差アーチ付ヴォールト等
- 7 設計図のないリブ起拱石
- 8 設計図のない要石
- 9 直接作図した痕跡
- 10 リブヴォールトのための石切術の作図
- 11 リブヴォールトの水平投影図

### 第3章 ルネサンス期の石切術

- 1 石の加工作業における手順—幾何学による表現と形成
- 2 切石造の球状ヴォールト
- 3 ルネサンス期のリブヴォールト
- 4 変遷と差異
- 5 新しい学問
- 6 専門書の内容
- 7 図の使われ方

### 第4章 一九世紀の截石術へ

- 1 一七、一八世紀の理論
- 2 平坦なヴォールト
- 3 迫り上げアーチ
- 4 弧成楕円および楕円形平面上のヴォールト
- 5 完璧な斜めのアーチ
- 6 斜めの橋
- 7 イコグノシア、表現の科学

石切術に関する参考文献

用語解説

訳者あとがき

索引

### ■著者略歴

エンリケ・ラバサ・ディアス

(Enrique Rabasa Díaz)

マドリード工科大学(スペイン)建築高等技術学校教授。1957年マドリード生まれ。スペインならびに諸外国の大学において、建設史、建築図法の歴史および截石術に関する多数の講座に参加し、講演を行う。本書を始め、同分野に関する研究論文多数。

### ■訳者略歴

入江 由香(いりえ・ゆか)

工学修士(早稲田大学大学院、建築史学専門)、一級建築士。1968年東京生まれ。共著に中川武・溝口明則監修『世界宗教建築事典』東京堂出版、2001年。



## 関連書籍

### 建築史〔全2巻〕

オーギュスト・ショワジー 著／桐敷真次郎 訳

セット定価110,250円(セット本体105,000円)

上巻：定価47,250円(本体45,000円)

下巻：定価63,000円(本体60,000円)

上巻：B5判上製函入 本文768頁 挿図412点 ISBN978-4-8055-0561-8

下巻：B5判上製函入 本文964頁 挿図455点 ISBN978-4-8055-0562-5

フランス19世紀に活躍した才能豊かな建築家ショワジーが、世界のあらゆる建築様式の根底にある共通の原理・法則を解明。徹底的に構築することに眼目をおいたその建築論は、ル・コルビュジエをはじめ、多くの建築家に影響を与えた現在も未来も読み継がれる世界建築史の古典的名著。

### 建築論全史 I

ハンノ・ヴァルター・クルフト著(元アウグスブルク大学正教授)  
竺覚暁 訳(金沢工業大学教授)

定価33,075円(本体31,500円)

B5判上製函入 本文440頁 挿図151点 ISBN978-4-8055-0606-6

ウィトルウィウスから現代までの建築論を通じて、建築がいかに建てられ、いかなる法則によって構築されてきたのかを全史的に論じた通史。各々の時代に表された建築論を知ることは当時の社会・政治・宗教・風土・習俗・権力構造など換言すればどのような「時代精神」によって構築されてきたかを如実に教えてくれる。これほど包括的かつ広範囲に建築理論を扱った歴史書はなく、世界各国で翻訳され、読まれている建築論事典。

お取り扱いは

## 中央公論美術出版

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7

電話 03-3561-5993 F A X 03-3561-5834